

秋葉哲生(あきばてつお)先生のプロフィール

1975年千葉大学医学卒業後、国保旭中央病院勤務(内科及び小児科)を経て、
'79年 あきば医院開院、1989年 あきば伝統医学クリニック院長に就任、今日に至る。

1990年には老人保健施設ハートヴィレッジを開設。元・日本東洋医学会理事。

著書は『新しい視点による 高齢者漢方治療マニュアル』(現代出版プランニング)。

◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

医学生時代にある同人誌の会員として千葉県先の哲医家取材して
伝記を書きました。

ただしこの原稿は没になって日の目を見ませんでした(苦笑)。
興味を抱いたのはその頃からです。



その当時は、後に漢方を御指導いただく藤平健先生も、佐倉順天堂の佐藤尚中も
同じ古い医学の大家のように思っていて、まったく正確な知識は有りませんでした。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

私は家庭医ですので、強いて云えば小児科から高齢疾患の内科が専門領域です。

プライマリケアを実践してみると、しみじみ漢方医学を修得しておいてよかったと思います。
西洋医学の隘路に縛られずに対処できることに感謝しています。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

私のところの施設の外来で1995年に調べた結果ですと、慢性疾患では、10%が漢方薬単独、
40%が西洋薬単独、残り50%が併用という結果でした。

急性疾患はもう少し漢方単独が多いかもしれません。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

漢方薬と西洋薬が自在に使い分けできる知識体系が確立している可能性が有ります。またそうなっ
てほしいですね。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

私は、10年前に特発性の顔面痙攣にかかりました。
例の脳神経の出口を血管が圧迫しているという、あれです。

MRIアンギオでもきれいに出ていました。
過去の治験例を調べたところ補中益気湯の例が
二例(だったと思います)有りました。



自分は日頃、柴胡桂枝湯であったので補中益気湯は大丈夫と思いついて、
補中益気湯を服用し始めました。

次第に症状が軽減してきて、約一年でほとんど良くなりました。
これはいまでも何故治ったのかなと考えるときが有ります。今も補中益気湯は持薬としています。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

なんでも恐れずやりなさい。カップの向こうに打たなければ、ボールはホールには入らないと、
(僕はやりませんが)ゴルファーは言うそうじゃありませんか。

まことに至言です。何だって恐れるな、やってみたまえと言いたいです。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方薬が効くのも、効かないのも、その方が養生できるか否かによります。
漢方薬の多くが食用の植物であることをお忘れなく。



◆座右の銘、お好きな言葉などありましたら教えてください

「有れば有るに従い、無ければ無きに従う」という言葉が好きです。
誰が言ったかは知りませんが。

注意:先生へのインタビューは、当会が2001年12月に行った内容です。